

～「令和4年度全国学力・学習状況調査」の結果について～

河内長野市立西中学校

《基本的な考え方》

本調査については、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する」と文部科学省の目的にあります。これらを含めて、本校では、次に挙げるような成果が期待されると考えております。

- 子どもたちは、それぞれの学習の到達状況を知ることで、学習意欲を高め、自ら目標を持って今後の学習の改善や励みになる。
- 学校は、自校の状況をより詳細に分析することで、子どもたちの確かな学力及び教員の指導力・授業力の向上につながる。



《調査結果の取り扱い》

今年度も全国学力・学習状況調査の結果と分析を提供いたします。

- ◇ 本調査により測定できるのは、学力の限られた一部分であり、学校における教育活動の一つの側面です。すべての学力を捉えられているものではないことに十分留意して取り扱うことが必要です。
- ◇ 学校は、「子どもにどのような力がついてきたのか」「学校がどのような教育を進めているのか」「子どもの学習状況や生活習慣等にどのような良い点・課題があるのか」など、一人ひとりの学力向上の取り組みの改善とともに、学校における課題を整理して、課題改善する取り組みを進めていきます。

《お願い》

- 学習への意欲は、子どもの自尊感情と大きな関係があります。友だちやきょうだいと比較することは、意欲を低下させる場合があります。今回の結果からお子様の伸びや課題を知り、まずはお子様の良いところを褒めてください。その上で、課題について頑張って克服できるよう励ましてあげてください。そのことがお子様の学習意欲を高めることにつながります。
- 学力の向上は学校が主にその役割を担いますが、各家庭におかれましても、今回の結果を子どもたちの基本的な生活習慣の見直しや今後の家庭学習の進め方等の参考にさせていただきますようよろしくお願いいたします。
- 調査結果のうち、正答率については、調査に参加した子ども並びに保護者の方のみ提供しているものです。学校間の序列化や過度な競争につながらないよう取り扱いについては、十分にご留意いただきますようお願いいたします。



学力調査の概要

国語

概要

- ・ 学習領域においては、府比、全国比ともに上まわり、おおむね理解できているといえる。基礎・基本の定着とともに活用する力の育成を進め、自分の意見を明確に表現できるスキルの獲得が必要である。

特に成果が見られた問題例

- 3一 表現の技法について理解する。
府比+14.1ポイント 全国比+14.8ポイント
- 3四 場面と場面、場面と描写などを結びつけて内容を解釈する。
府比+11.9ポイント 全国比+8.9ポイント
- 4三 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する。
府比+12.9ポイント 全国比+11.2ポイント

特に課題が見られた問題例

- 1三 自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫して話す。
府比-7.5ポイント 全国比-13.3ポイント
 - ・ 相手に対して、自分の意見を具体的に伝える方法に、躊躇した面が見られ、無解答が15.0パーセントあった。

数学

概要

- ・ 学習指導要領における4領域で、平均正答率は府・国と比較して上回っているため、おおむね理解が出来ているといえる。
- ・ 少数ではあるが、基礎的な知識・技能を取得していない生徒もみられ、さらに問題の意味を理解することが課題になっている。これら生徒を指導する必要があると思われる。

特に成果が見られた問題例

- 1 42を素因数分解する
 - ・ 府より+20.2ポイント高い。冬休みや春休みの課題プリントで復習した効果が出ていると思われる。
- 9 (1) 証明で用いられている三角形の合同条件を書く
 - ・ 府より+19.7ポイント高い。これは、証明の課題プリントを練習したことにより基礎的な知識の定着に繋がったと思われる。

特に課題が見られた問題例

- 7 (1) コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する
 - ・ 府より -3.3ポイント。正解があるのかどうか、どう答えればよいのか問題の答え方に戸惑ったように思える。問題の意味を理解することや、それを利用して、考えを記述することが課題と言える。

概要

- ・ 学習指導要領における4領域で、平均正答率は 府・国と比較して 上回っているため、おおむね理解が出来ているといえる。
- ・ 少数であるが、基礎的な知識を習得していないため、短答式や記述式の問題に関しては無回答の生徒が見られることが課題となっている。これらの生徒を丁寧に指導していく必要があると思われる。

特に成果が見られた問題例

5(1) おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する

(2) 「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する

(3) 考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する

(1) 府より+14ポイント。(2)府より+15.8ポイント。(3)府より+16.2ポイント。

- ・ 実験の計画や考察などを普段から行っていることにより、初見の実験でも計画、考察ができるようになってきていると思われる。

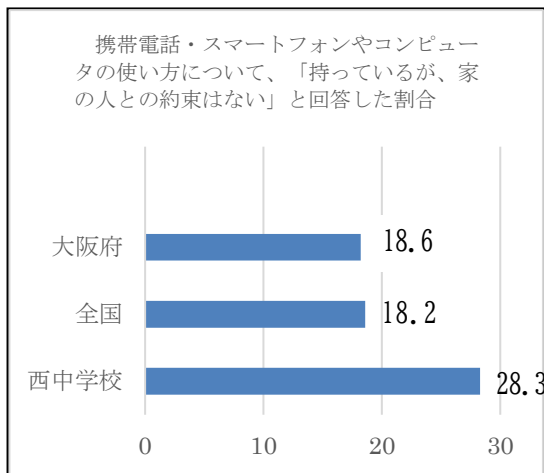
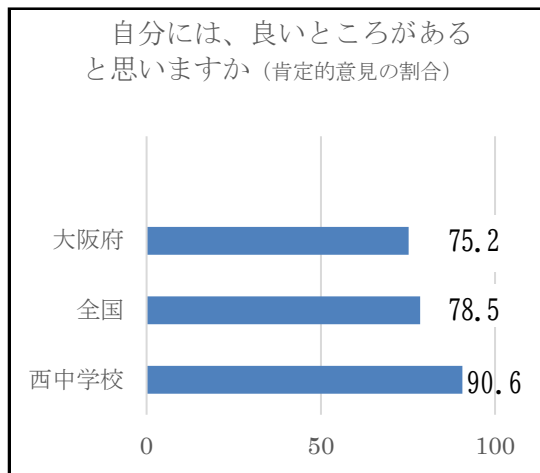
特に課題が見られた問題例

1(1) 日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する

- ・ 府より-7.9ポイント。身につけている知識と日常生活とを結び付けて考えていくことが課題といえる。

学習状況調査の概要

生徒アンケート



概要

- ・ 「自分には、よいところがあると思いますか」という問いに対する肯定的な回答も90ポイントを超えています。自分の行動が周りから認められることで、高い有用感を感じ、それが「人が困っているときは、進んで助けていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問で肯定的な回答が全国、府よりも多いことにつながっていると考えられます。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思」う生徒の割合も非常に高く、正しい人権感覚を身につけていることが分かります。
- ・ 家庭学習(1時間以上)に取り組んでいる生徒が、府や全国の数値よりも高くなっています。日頃の授業では発表方法や内容に工夫をするなど、知識を身に付けるだけでなく発展的に活かす取組が見られます。これが良い結果に結びついています。
- ・ 1日の読書時間が30分以上の割合が全国や府に比べて少なく、10分以下という回答が全国や府に比べて多く見られました。また、新聞を読む時間が「ほとんど、または全く読まない」と答えた割合が、全国や府よりも高かったです。
- ・ 「授業でICT機器を用いる場面が少ない」と感じている生徒の割合が、全国や府と比較して大変多くなっています。

特に成果が見られたアンケート項目例(肯定的意見が70%を超え、かつ全国や府よりも多いものの例)

- ・ 自分には、よいところがあると思いますか
- ・ 将来の夢や目標を持っていますか
- ・ 人が困っているときは、進んで助けていますか
- ・ 学校に行くのは楽しいと思いますか
- ・ いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思えますか
- ・ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか
- ・ 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)の1時間以上の割合
- ・ 1,2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

特に課題が見られたアンケート項目例

- ・ 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか(生徒アンケートのグラフを参照)
- ・ 「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」に対して、【30分以下(全く市内を含む)】とした割合が79.2%
- ・ 「新聞を読んでいますか」に対して、【ほとんど、または全く読まない】とした割合が88.7%
- ・ 「授業中にPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」に対して、【週1回以上】とした割合が45.2%

調査結果を受けて

学校が重点的に取り組んでいくこと

○ 学校・家庭・地域との更なる連携

現在、本校では生徒が大変落ち着いて授業に臨んでいます。これは日頃から学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを育てていくという生活環境の賜物です。今年度は「西中ゼミ」だけでなく、「心に残る映画の上映会」など生徒・保護者・地域の方が交流する機会を新たに設けています。地域への関心、地域行事への参加が比較的高い西中校区の特長を今後も生かしていきたいと考えています。

○ 教員の授業力向上

生徒一人に一台パソコンが貸与され、ここ数年で授業の形態が「講義型」から「生徒が自ら進んで調べ、教え合い、まとめる」に大きく変わって来ています。本校でもシンキングツールの活用をテーマに、令和4、5年度と研修を進めています。また、一人1台パソコンを使用する場面を更に増やし、引き続き主体的・対話的で深い学びを進めながら、授業内容の充実を図っていきます。

生徒のみなさんにしっかり取り組んでほしいこと

○ 人とのつながりや感謝する心を大切に

授業やクラスでの活動、部活や様々な学校行事を通して、周りの人と関わる機会を積極的につくってください。そうすることで互いを知り、認め合いながらより良い人間関係が築け、社会で生きていくための力につながります。「人が困っていたら進んで助けている」「人の役に立つ人間になりたい」「友達と協力するのは楽しい」と多くの人が回答しています。その気持ちや行動が「自分にはよいところがあると思う」に肯定的な回答が多い要因です。今後もこの姿勢を持ち続け、積極的に活動をしてください。

○ 毎日の積み重ねを大切に

「毎時間の授業」「帰宅後の学習」等、日々の学習に向かう姿勢、取組みの成果が表れています。これからもぜひ継続させてください。本校では「読む力」「聞く力」「考える力」「書く力」を育てる取組みに力を入れています。日頃から本や新聞を読む等「活字に触れる機会」を増やす事が更なる学力向上につながります。パソコンやスマホの画面からだけでなく、「紙から知識や情報を得る」ことも大切です。

保護者のみなさまに協力してほしいこと

○ 基本的な生活習慣、継続的な学習習慣の定着

学習に関して、大変良い結果が出ています。これは毎日の学習の積み重ねと共に、生活リズムや食生活がしっかりされている等基本的な生活習慣が確立されていることが大きな要因となっています。以前から良い生活習慣の例として、「早寝早起き朝ごはん」が取り上げられています。食事や睡眠が子どもの心身の健やかな成長はもちろん、学力や体力の向上にも密接な関係があると言われています。今後ともご協力をお願いいたします。

○ 目に見えない人間関係にも注意を

依存症、メールなどでの他人の中傷、人権侵害、ネット上のトラブル等、スマホやSNSに関する問題が多数報道されています。これらのことが実際に起こってしまうと、これまでの生活環境の維持はもちろん、学習に向きあう状況ではなくなる場合があります。学校でも SNS の使い方やスマホの使用に関

しての注意すべき点などについて、学活などの時間を使って行ったり、小学校に授業をしに行ったりするなどの取組を行っています。子どもたちの使っている機器は、あくまで保護者の責任の下に子供たちに貸し与えているという共通した認識をお持ちいただき、しっかりとお子さまと話をし、使用に関して家庭でのルールを作ったり、トラブルに巻き込まれていないか監督をしたりしていただきますようお願いいたします。